

北海道社会学会ニュース

H.S.A.NEWSLETTER

発行：北海道社会学会事務局

〒060-0906 北海道札幌市東区北6条東3丁目3-1 サッポロ63ビル6階
北海道NPOサポートセンター気付

FAX: 011-299-6941 E-mail: socio@npohokkaido.org 担当 畑
郵便振替口座 02760-3-3085 URL <http://www.soc.nii.ac.jp/hsa>

HOKKAIDO SOCIOLOGICAL ASSOCIATION

c/o Hokkaido NPO Support Center,

Sapporo 63 Bldg., Kita 6 Higashi 3 3-1, Higashi-ku,

Sapporo, 060-0906 JAPAN URL <http://www.soc.nii.ac.jp/hsa/>

編集責任者：高田洋（庶務理事） 札幌学院大学社会情報学部 htakada@sgu.ac.jp

〒069-8555 江別市文京台11丁目 TEL 011-386-8111（代表） FAX 011-386-8113（代表）

第58回北海道社会学会大会について

原 俊彦（研究活動委員長）

第58回北海道社会学会大会は、6月19日（土）・6月20日（日）の両日、北海道教育大学函館校（函館市）にて開催されました。今回の大会では12本の一般研究報告があり、三部会編成となりました。

シンポジウムは「地域メディアとコミュニティの関係性」をテーマに、地元コミュニティメディアのFM いるかの取り組みや、富山県山田村の地域情報化の研究事例の報告がなされ、地域メディアとコミュニティの関わりやそのあり方について活発な議論がかわされました。また初日、夕刻の懇親会も親密な雰囲気の中で、なごやかな交流がなされ、久しぶりに札幌地域以外で開催された大会の良さを味わうことができました。

参加者は会員39名、非会員19名（計58名）でした。大会運営にあたって下さった北海道教育大学函館校の藤井廣美会員、内田啓太郎会員、大学関係者、学生の方々のご尽力に深く感謝する次第です。また大会を後援して下さいました北海道教育大学函館校・函館市・函館市教育委員会に末尾ながら改めて謝意を表します。

第58回北海道社会学会総会について（第58回北海道社会学会総会議事抄録）

日時：2010年6月19日（土）17:00～17:40

会場：北海道教育大学函館校 1番講義室

議長：平沢和司 会員

報告

1. 庶務報告（高田庶務理事）

1-1. 会員異動（2009年6月～2010年6月）

新入会員4名・退会会員4名（うち自然退会2名）の増減なしで、6月19日現在の会員数は一般会員127名・学生会員31名の計158名。

1-2. 理事会開催

2009年11月、2010年2月、6月の3回およびメールによる持ち回りで随時開催した。

1-3. 会報の発行

4号発行（No.80～83）した。

1-4. 学会研究奨励賞の交付

応募者1名、交付者1名

1-5. 電子アーカイブ化について

journal@rchiveにて『現代社会学研究』20号までの電子アーカイブ化済、21号以降の電子アーカイブ化については、JSTとの交渉を進める。

1-6. 事務局の住所移転について

前号記載、本ページ上部に記載のと通りの住所に事務局が移転した。メールアドレスは従来通り。

2. 研究活動委員会報告（原研究活動委員長）

今回大会のシンポジウム開催を企画・運営した。

3. 編集委員会報告（井上編集委員長）

『現代社会学研究』第23巻を編集・発行した。

4. 次回第59回大会開催校について（小内会長）

天使大学に決まり、小内会長より紹介、同校の田島忠篤会員より挨拶があった。

議題

1. 2009年度決算（笹谷会計理事）

提案（後掲）のとおり承認された。

2. 2010年度予算案（笹谷会計理事）

提案（後掲）のとおり承認された。

第3回理事会報告

日時：2010年6月19日（土）13:00～14:30

会場：北海道教育大学函館校1階大会議室

出席者：小内会長、原・井上・梶井・松岡・高田の各理事（櫻井副会長、杉岡理事は欠席）

報告

上記の総会における議題と同じ。

第 58 回大会シンポジウム「地域メディアとコミュニティの関係性」について

小内純子

今年のシンポジウムは「地域メディアとコミュニティの関係性」というテーマで行われた。まちづくりにとっての地域メディアが果たす役割について再検討しようというものである。

第 1 報告は、FM いるかのプロデューサー宮脇寛生氏が、「FM いるかの取り組みとコミュニティへの関わり 一街のための放送とは何だろう」というテーマで報告を行った。FM いるかは、1992 年に日本初のコミュニティ放送局として函館市で開局してから 18 年の間に、確実に地域に根をはって来た放送局である。特に、2004 年の台風 18 号の上陸の際、地域に密着した放送を行いその存在意義を示した。また、地元のコンビニや学校とタイアップし、リスナーを巻き込んで行われたお弁当の企画・販売は「ホクレン夢大賞」などを受賞している。一方、近年の経済危機から地域貢献と放送業務の両立が困難な面が出てきているといった課題が指摘された。

第 2 報告は、内田啓太郎氏（北海道教育大学函館校）の「<コミュニティの二重性>から<コミュニティ意識の二重性>へ」である。内田氏は、かつて“電脳村”と呼ばれた富山県山田村で 1998、2003、2007 年にインタビュー調査を実施してきた。今回の報告では、主に 1 人のインフォーマントへのインタビュー調査結果から、CMC の実践と受容を通じて山田村内外に新しい地域性が形成されてきており、それが従来から存在した山田村というコミュニティと「のりしろ」を介して結びついていることを明らかにした。

次いで、この 2 つの報告を受けてコメントの北郷裕美氏（札幌学院大学大学院専門員）から、ダイレクトにつながる空間メディアとしてのネットと媒介役としてのつなげる空間メディアとしてのラジオという関係が図示され、両者の地域メディアとしての相異点と共通点が示された。

その後、活発な質疑が交わされ、最後に再び北郷氏によってグローバル化の進展のなかにおける地域メディアの位置づけとそのツールとしての役割の重要性についての指摘がなされ、議論は終了した。シンポジウム全体を通じ、現在、メディアは多様化し、グローバル化も極限に達しているが、そうした状況にあるからこそ特定の地域に結びついた地域メディアには固有の役割があり、かつ可能性を秘めたツールであることが確認された。

委員会報告

研究活動委員会（原委員長）

大会シンポジウム企画案募集のお知らせ

6 月 19 日の打ち合わせでは大会活性化をめざし、大会シンポジウムについては、今年度も引き続きニューズレターを通じて会員からも企画提案を募ることにしました。こういう企画を取り上げてほしい、あるいは何らかのテーマでシンポジウムを組織したいなどのご提案をお待ちしております。

- ・ 次期開催校が天使大学ということもあり、医療・看護関係のテーマがあれば歓迎致します。
- ・ 仲間の研究者と組んで自分たちの研究分野をアピールしたい
- ・ 大学院在学中の若手研究者を中心に、自分たちでシンポジウムをやる（シンポジウム組織者・報告者・討論者というのは研究業績としては悪くないはず！）

などの企画を歓迎致します。

* 報告者・討論者は原則として北海道社会学会会員を中心としますが、会員外の研究者を加えても構いません。

* なお大会シンポジウムは開催校の意向なども関係します。ご提案頂いても、ただちに来年度の大会に採用にならない可能性もあります。その点については予めご了解下さい。

締切：2010 年 8 月 31 日。

結果の報告：研究活動委員会で検討し、次回のニューズレターで結果を報告します。

お問い合わせ／連絡／送付先：研究活動委員会（委員長）札幌市立大学 原俊彦 研究室

Tel: (直) 011-592-5860 (代) 011-592-2300

FAX : 011-592-2374 E-mail : t.hara@scu.ac.jp

編集委員会（井上編集委員長）

『現代社会学研究』第 24 巻（2011 年 6 月発行予定）の原稿募集について

① 投稿原稿の募集

『現代社会学研究』第 24 巻の投稿原稿を募集します。投稿を希望される方は、学会ホームページから「投稿申込書」をダウンロードし、必要事項を記入の上、学会事務局（socio@npohokkaido.org）に宛ててメールの添付書類で送信してください。その際の添付ファイル名は「投稿申込〇〇.doc」（〇〇には申込者の氏名を入れる）としてください。申込の締切

は、8月31日（火）まで（同日必着）とします。申込者には数日のうちに事務局から申込書受理のメールが返信されますので確認してください。申込の時点で2010年度までの会費が完納されていないと申込は受理されませんのでご注意ください。

原稿の提出締切は10月31日（日）です。分量は従来通り、400字詰50枚（20000字）以内で特に変更はありません。その折に学会ホームページから「投稿カード」をダウンロードして添えてください。その他の詳細は同誌巻末に記載されている「編集・投稿規程」および「執筆要項」を熟読してください。

なお、西日本社会学会との交流協定（ニューズレターNo. 64参照）に基づき、本学会員は西日本社会学会の機関誌に投稿することが可能です。詳細については次の同学会のホームページを参照してください（<http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/~sociowest/>）。

② 書評対象書の募集

『現代社会学研究』第24巻に書評を掲載する対象書を会員の皆様から広く募集します。自薦他薦を問いません。会員の著作（会員の単著、または会員が編著者になっているものが原則）で書評として是非取り上げて欲しいものがありましたら、その書誌情報（著者名、書名、発行年、版元名）を学会事務局（socio@npo-hokkaido.org）までお寄せください。自薦の場合は、書評を書いて欲しい会員名、リプライ付を希望するか否かについてもお伝えください。またできれば書籍現物もお寄せください。特に指名がない場合は執筆者を編集委員会で決めます。当該書の発行時期は必ずしもこの一年間でなくても構いません。過去数年に刊行されたもので、書評対象とするのにふさわしいと思われるものについても可とします。締切は、10月31日（日）（同日必着）とします。

情報を集約の上、編集委員会で検討して掲載の是非を決め、結果をご連絡します。

③ 書評原稿および「往来」原稿の募集

今回からの新しい試みとして、本誌を会員の研究交流の場として活性化させていくというねらいから上記の条件を満たす書籍を対象とした書評原稿そのものについても募集します。必ずしも書評という形式ではなく、その書籍の内容に何らかの形で言及しながらある研究テーマについて展開する内容となっても構いません。また海外事情の紹介やある分野についての最近の研究動向などに触れた「往来」の原稿も募集します。いずれも学術的な内容であることを条件とし、分量は3000字程度、締切は、10月31日（日）（同日必着）とします。学会事務局

（socio@npo-hokkaido.org）までお寄せください。メールの添付書類で送信してください。その際の添付ファイル名は「書評投稿申込〇〇.doc」ないし「往来投稿申込〇〇.doc」（〇〇には申込者の氏名を入れる）としてください。但し投稿された原稿の取り扱いについては編集委員会にご一任ください。「往来」については投稿が少ない場合などには編集委員会から個別にお願いすることもあり得ます。その折にはどうかよろしくご対応お願いします。

④ 広告の募集

『現代社会学研究』第24巻に広告の掲載を希望する会員ならびに出版社など関係する方はその旨を、2011年1月末日までに学会事務局（socio@npo-hokkaido.org）宛にメールでご連絡をお願いします。その後、完全版下を提出していただきます。その内容に関して編集委員会で検討して掲載の是非を決めます。広告料金は半ページあたり5000円で巻末に掲載の予定です。

北海道社会学会研究奨励金について

北海道社会学会では社会学研究の活性化と若手の育成を目的として、2006年より研究奨励金を交付しています。については下記により奨励研究を募集いたします。ぜひご応募ください。

1. 募集件数：2件（1件5万円）
2. 応募資格：本会会員（若手単独が望ましい。若手とは、自分で科学研究費申請ができない地位にある大学院生や大学院修了者等を指す）
3. 条件：奨励金交付後2年以内の本学会大会での研究発表、および2年以内の『現代社会学研究』への投稿を条件とします。
4. 応募方法：まず応募用紙を庶務理事あてe-mailでご請求ください。ついで応募用紙に下記を記入し、庶務理事まで郵送により提出してください。
 - ①研究テーマ、②応募者（氏名・所属）・郵便番号・住所・TEL・FAX・e-mailアドレス、③研究の目的と「社会学研究」としての意味・位置づけ等（具体的に）、④研究の方法と予想される成果（具体的に）、⑤指導教員のサインと印
5. 提出期限：2010年10月29日（金）必着
6. 提出先・問い合わせ先：高田洋（庶務理事、あて先は1ページ参照）

会員異動（2010年6～7月）
(ホームページ公開版では省略)

会費の納入について

2010年度会費または未納分会費について、同封の郵便振替用紙〔郵便振替口座 02760-3-3085〕にてすみやかに振り込み手続きをお願いします。年会費は一般会員 6,000 円、学生・院生会員 4,000 円です。2010年度会費を納入されていない方には、機関誌第 22 巻（本年 6 月発行）をお渡しできません。5 年間滞納されると、自然退会の扱いとさせていただきます。

第 58 回大会会計報告・2009 年度決算・2010 年度予算案

(ホームページ公開版では省略)